



TITLE:

『京都大学大学文書館研究紀要』 編集要項, 編集後記

AUTHOR(S):

嘉戸, 一将

CITATION:

嘉戸, 一将. 『京都大学大学文書館研究紀要』 編集要項, 編集後記. 京都大学大学文書館研究紀要 2004, 2: 161-162

ISSUE DATE:

2004-02-29

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/68842>

RIGHT:

『京都大学大学文書館研究紀要』編集要項

編集要項

1. 京都大学大学文書館に、京都大学大学文書館研究紀要（以下、「研究紀要」という。）の構成および内容に関する基本的計画の立案その他編集の総括を行うため、京都大学大学文書館研究紀要編集委員会（以下、「編集委員会」という。）を置く。
2. 編集委員会に委員長を置き、大学文書館長をもってあてる。委員は大学文書館教員とする。
3. 研究紀要には、京都大学および高等教育の歴史、アーカイヴズ論等に関する論文、研究ノート、資料紹介、書評等を掲載する。
4. 論文は、400字詰原稿用紙換算で60枚以内、研究ノートは40枚以内、資料紹介は80枚以内、書評は20枚以内とする。ただし、編集委員会で特に認めた場合はその限りではない。
5. 研究紀要に執筆することができるのは、京都大学大学文書館の教職員のほか、学内外を問わず編集委員会で選任して依頼した者、執筆を希望して編集委員会で認められた者とする。
6. 原稿は原則として未発表のものに限る。

編集後記

『京都大学大学文書館研究紀要』第2号をお届けします。

近年、アーカイヴズをめぐる状況には様々な動きが見られます。ご存知のように、2003年4月には内閣府に「歴史資料として重要な公文書等の適切な保存・利用等のための研究会」が設けられ、また情報公開法や個人情報保護法などアーカイヴズと関係の深い公文書の開示に関わる法制度も整備されました。国立大学のアーカイヴズが置かれている状況の変化について言えば、大学の法人化を2004年4月に控え、大学はより一層の公開性や自主性を具体的に整えていかなければなりません。今後、大学アーカイヴズが果たすべき役割も、従来以上に明確で、開かれたものになることが求められることになるでしょう。これは大学アーカイヴズにとっては新たな可能性でもあります。例えば、アーカイヴズは大学の公開性を保障するための施設として位置づけることができ、また自主性の根拠となる歴史性を検証するための施設として位置づけることも可能です。この第2号にも、アーカイヴズの理念に関する論文、京都大学の歴史に関する論文が収録されています。

大学という研究・教育機関のアーカイヴズは、様々な資料の保存・公開に加えて、アーカイヴズや大学のあり方を自ら歴史的に検証し、その成果を提供するのも使命だと考えられます。本研究紀要もその一環として、そしてアーカイヴズの可能性を模索する場として、今後も継続・発展させていくことを目指しております。読者の皆様には、是非忌憚のないご意見をお寄せ頂きたくお願いいたします。

(大学文書館助手 嘉戸一将)

京都大学大学文書館研究紀要 第2号

2004(平成16)年2月29日発行

編集 京都大学大学文書館研究紀要編集委員会

発行 京都大学大学文書館

606-8501 京都市左京区吉田本町

電話 075(753)2651

印刷 (株)廣済堂 大阪事業部

560-8567 豊中市蛸池西町2-2-1

電話 06(6855)9240
